

明石市

国際協力海外レポート

桑田 哲也（くわた てつや）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イロイロ州ギンバル町

職種：コミュニティ開発

赴任期間：2017年4月～2018年12月（予定）



首都での1か月半の研修も終え、現地に赴任して数日経ちました。まだまだ生活になれない部分も多いですが、周囲の同僚の支えもあり、元気に活動しています。初回の寄稿なので、フィリピンの概要と任地について簡単にご紹介させていただきます。

○フィリピン国概要

東南アジアに浮かぶ島国であり、7,109の島々からなる。総面積は日本の約8割ほどであり、人口は約1億98万人。マレー系、中華系、スペイン系など多民族で形成されている。公用語は、タガログ語を母体としたフィリピン語、英語であり、その他100を超える言語が存在する。国民の8割がキリスト教を信仰しており、ASEAN加盟国で唯一のキリスト教国でもある。大きく分けて、北部のルソン地域、中部のビサヤ地域、南部のミンダナオ地域の三つの地域から成り、南部のミンダナオ島にはイスラム教徒も多数暮らしている。気候は熱帯海洋性気候であり、雨季（6月～11月）と乾季（12月～5月）の二季からなる。



フィリピンの国旗



フィリピンの地図

○産業・経済状況

おもな産業は農業であり、米・サトウキビ・ココナッツ・バナナなどの生産が盛ん。毎年約 1500 万トンの米を算出する世界第 8 位の米生産国。林業も盛んで重要な輸出品となっているが、森林の減少が問題になっている。

ほとんどの人が英語を話せるという特性から、海外への出稼ぎ労働者 (OFW) による送金を背景とした「人材輸出サービス」が盛んである。同様に、インターネット上で労働力を提供する BPO (ビジネス・プロセス・アウトソーシング) も盛んである。具体的には、欧米諸国からのコールセンター・経理などの業務発注を受けている。

以前はアジアの中でも貧国であったが、2010 年から平均 6% 台の GDP 成長率を維持しており、サービス業と製造業が景気上昇を牽引している。2014 年には人口が 1 億人を超え、投資先や市場として注目を浴びる一方、インフラの未整備や約 25% と高い貧困比率を持つなど、改善されるべき課題も多い。



コールセンター業の様子

○赴任地と活動について

私の赴任先はビサヤス地方イロイロ州ギンバル町という町です。人口 3 万人台、海沿いの小さな町です。配属先はギンバル町役場社会福祉開発事務所という部署であり、MSWD (Municipal Social Welfare and Development office) と呼ばれています。障害者への支援を主な業務として担当し、同じ部署の職員の方と連携して障害者宅を個別に訪問して個人に合わせた自立支援プログラムを策定・実施しています。フィリピンの障害者状況は日本とは大きな差があり、求められることも日本とは異なります。私は外部からのボランティアであり、現地の人と同じ目線に立つことはできても、全く同じことが出来るわけではありません。外部からのボランティアであるからこそ出来ることを考え、隊員同士の繋がりを存分に活かし、現地のために出来ることを模索していく予定です。



ギンバル町役場



訪問する町の様子



ギンバル町役場前の前の協会